



Sponsor a Child

クリスチャンパートナーズ

通信第 80 号

-
- | | |
|---|----------------------------------|
| ・発行日 / 2010 年 2 月 5 日 | ・発行所 / クリスチャンパートナーズ |
| ・事務局 / 〒422-8053 静岡市駿河区西中原
2 - 7 - 63 - 1001 草野計雄方 | ・Tel / Fax 054-283-9317 |
| ・郵便振替口座 / 00150 - 0 - 134994 | ・e-mail / cnec-kk@mail.wbs.ne.jp |
| | ・http://www2.wbs.ne.jp/~c-p/ |
-

「新たに生まれる」 新約聖書 ヨハネによる福音書3章1節~15節

理事長 木ノ内 一雄

ニコデモは夜、主イエスのところにやって来て言いました。「ラビ、わたしどもは、あなたが神のもとから来られた教師であることを知っています」。ニコデモはサンヘドリンと呼ばれるユダヤ最高法院の「議員」でした。その彼が主イエスに国の指導者、支配者を代表して挨拶したのです。「神が共におられるのでなければ、あなたのなさるようなしるしを、だれも行うことができないからです」と。

「夜」とは「暗闇」であって、ヨハネの福音書ではその言葉には特別の意味があります。それは「この世」であって、「無知」、「罪」の象徴でした。「しるし」とは奇跡のことで、それによってニコデモは主イエスの語られる言葉もまた神から出ていることを認めると告白したのです。そのニコデモに主イエスは答えられました。「はっきり言うておく。人は、新たに生まれなければ、神の国を見ることはできない」。「新たに」はギリシャ語のアノセンで、「上から」と「再び」の意味があります。夜来たニコデモは「再び」の意味に取り「年をとった者が、どうして生まれることができるでしょうか。もう一度、母親の胎内に入って生まれることができるでしょうか」と言いました。それに対し主イエスは「だれでも水と霊によって（新たに）生まれなければ、神の国に入ることはできない」と彼の言葉を正されました。

主イエスは御自身が「天から降って来た者」と信じる者たちを「わたしたち」と呼び、ニコデモを「あなたがた」と呼んで明確に区別しています。ニコデモは主イエスをあくまで人、つまり旧約聖書の預言者の一人のように見ていたのです。彼は神が主イエスを通して働かれているのを見ましたが、主イエス御自身が神であるとは信じられませんでした。

わたしたちはどうでしょうか。主イエスをどのように信じるかによって「わたしたち」と呼ばれるのか「あなたがた」と呼ばれるのかが決まります。もし、「あなたがた」であるなら、神の国に入るために主イエスを神の子と信じ、「新たに生まれる」ことが求められます。かつてわたしたちは新しい年の初めには全てが新しくなると考えていました。しかし、私たちが「新たに生まれる」のは主イエスによるのです。

年の初めに当たって、皆さんにとって今年も良い年でありますようお祈りいたします。

バンクーバー CEO 会議に出席して

理事長 木ノ内 一雄

昨年、9月28日から30日までバンクーバーのキーツ島で開かれたパートナーズ インターナショナル CEO 会議に出席しました。参加者は主催国であるカナダをはじめ、アメリカ・イギリス・オーストラリア・シンガポール・日本の12人に加え、南アフリカとコンゴからの3人の招待客で計15人でした。



参加者全員 右端：木ノ内理事長

長

たが、皆がそれに集まる時間が取れないため、最初の日をこのための会議とし三日間になりました。また、今回は欧米国からは援助組織の長であるプレジデントと一緒に監査組織の長であるチェアマンが出席し、情報の交換と共に、必要な助言を出席者に与えました。

中国宣教に関しては、中国の東海岸臨海部の発展に比べ、内陸部の発展の遅れが指摘されました。このことは中国のメコン川源流地域だけでなく、タイ・ベトナム・ラオス・カンボジアといった流域国に及ぶ広範囲なものでした。その地域に住む様々な少数民族にどのように福音を伝えたらよいかが話し合われました。アメリカやオーストラリアは神学校や病院の建設に力を入れ、シンガポールでは貧困層の人々への宣教や SAC などの教育支援に力を入れています。そのため互いの情報の交換と調整、協力が欠かせないものとなっています。

二日目以降は本来の CEO 会議に入り、各国の活動が報告されました。私は伝道 150 年を迎えた日本のプロテスタントキリスト教の現状と、クリスチャンパートナーズの活動状況を報告しました。

会議の全体にわたって議題の中心は中国とアフリカ伝道でした。南アフリカからの出席者はアフリカ諸国に共通の課題として貧困、病気、環境問題をあげました。コンゴからの出席者も医療の現場からそれらの問題を具体的に指摘しました。それらの問題と闘いながら伝道を進めていくのです。

会議では、150 年前と変わらず欧米国の宣教の関心は中国とアフリカにありました。それ以外の国としてはインドと南米でした。クリスチャン数が人口の 1 パーセントにも満たない日本から来た私がこのような欧米国中心の宣教会議に出席し、しかも援助する側に座っているのが不思議でした。同じアジアのシンガポールは日本より組織が大きく、また自らの力でアジア諸国に宣教をしています。同時に多大の援助をアメリカから受けており、欧米国とは状況が異なります。

会議では、出席者はパソコンを上手に活用していました。各自が持参したパソコンを使いながら発言し、パワーポイントを用いて活動報告をしました。また、議題によってインターネットで各地の事務所や宣教師とが結ばれ、スクリーンを前にしてのテレビ会議の場となりました。

最後にこの会議を通して出席者の方々が日本に好意を持ち、これからの働きに期待していることがよく分かりました。自分たちに出来ることは何でも協力したいと言われ、皆で祈ってくれました。特に議長国のカナダ、そして私たちと結びつきの強いアメリカからの出席者の配慮と好意には感謝でした。これらの経験を踏まえて、クリスチャンパートナーズのこれからの歩みに役立てたいと思います。(CEO=chief executive officer 最高経営責任者)

私たちの喜び

インドネシア・西カリマンタンで、宣教活動をしておられる高橋宣教師から、私たちが支援している小・中・大学生や教師の近況が伝えられました。

宣教師 高橋めぐみ

カリマンタンの子供たち、学生たちのためにお祈りとご支援をありがとうございます。皆様に支援していただくようになってからもう随分年数が経っていますが、愛をもって支援くださっている皆様にとっても、また仲介者となっている私にとっても、嬉しい事はやはり「受ける側」だった子供たち、学生たちが今度は「仕える側に」なるのを見ることではないでしょうか。

通信第 79 号で紹介していただいたマルティヌス兄は、現在私が奉仕しています ATI 神学校の教務課勤務になり、時間割や成績表など教務に関する庶務をてきばきとこなしています。ATI 神学校ではマスターのコースも開いていますので、彼はその学びもしつつ、将来は教鞭をとることになると思います。以前支援していただいていたイカさんはシンタン・インマヌエル中学で数学など理数系の学科を教えています。カリマンタンでは理数系の先生が特に不足していますので貴重な存在です。YPPII（インドネシア福音交友会）のゲストハウスの接待も任されており、去年 11 月に私が日本からのお客さんと共にシンタンを訪問した際には食事や宿泊のお世話もしてくれました。すっかり頼もしい存在になっている彼らを見ると嬉しくなって、皆様にもぜひご報告したいと思われました。

現在大学で学費を支援していただいているデピ、ダミ、デヴィも将来教師になりたいとがんばっていますし、また ATI 神学校で支援していただいていたベリアナ姉とエピア兄は今年 2 月末に卒業予定で（現在は卒論の試験に臨もうとしているところです）、二、三ヶ月後にはどこかの教会、あるいは宣教団体での奉仕が始まっていることでしょう。カリマンタンの村々ではまだまだ教師、牧師、伝道師が不足しています（サポートいただいているセイダウン小学校の祈祷課題の一つも教師の不足です。スンバンという場所の分校はまだ教師が一人もいない状態で、本校の教師が兼任しています）。一朝一夕では人材は育ちませんが、こうして年月とともに一人、一人と仕える側となっていくのを見るのは本当に素晴らしいことだと思います。遠く離れているにもかかわらず、誠実に援助くださっている皆様の上に、神様からの報いと豊かな祝福がありますようにと願います。



左 理数科の教師イカさん



インマヌエル中学校の教室風景

イカさん（ケジア・カルティカさんの愛称）は、2005 年秋にタンジュンブラ大学を卒業し、インマヌエル中学校で教鞭をとっておられます。「通信」第 67 号に卒業の時の写真と挨拶文が載っています。

ベリアナ姉、エピア兄は「通信」第 66 号で、デヴィさんは第 66 号・第 78 号、デピさんとダミさんは第 78 号でご紹介しました。

セイダウン小学校の生徒たち



みんなで勉強

教室の大移動？



インマヌエル中学校の教師陣



船でしか行けなかったセイダウン小学校へ、ヤシ油ブランドションの開発で道ができました。モータバイクで視察旅行に行かれる高橋先生。



【理事会報告】第159回理事会は2009年10月19日(月)一ツ橋学士会館で開催。前回議事録承認。2009年8・9月会計報告承認。理事長のカナダ開催のCEO会議報告。ガーナプロジェクトについて米国の協力を得るのは困難。ロバン村教会の敷地建物購入は実現化に近づき、理事・会員からの支援申し出もあるので、詳細な現状報告をシンガポールに求める。里子からの第2回手紙到着、翻訳の後、里親に配布。東南アジア各地の自然災害についてシンガポールから支援要請があり、災害援助予算から支出。第160回理事会は2010年1月18日(月)一ツ橋学士会館で開催。前回議事録承認。2009年10・11・12月度会計報告承認。ガーナプロジェクトに年末に20万円送金。ようやくガーナと連絡が取れ、2008年度の活動報告到着。CEO会議出席の南アフリカ代表の協力を得て、ガーナプロジェクト支援を続ける。ロバン村教会不動産取得に100万円の支援決定、シンガポールに送金。「通信」第80号は理事長のCEO会議報告他。オーストラリアPIからハイチ地震災害支援の要請が来たので、災害援助予算から5万円を送る。第161回理事会は2010年4月19日(月)一ツ橋学士会館で開催予定。

<編集後記> 東南アジア各地の自然災害に対する支援にシンガポールPIから要請があり、続いてハイチの大地震にオーストラリアPIから要請がありました。「被災地援助」項目に集めてある皆様からのご支援金を、早速それぞれのPIに送金いたしました。被災地と直接関係のあるPIが有効に用いてくれると期待します。ご協力をありがとうございます。

新しい年もはや一ヶ月過ぎました。この冬は久しぶりに寒さが厳しいようですが、くれぐれもお大事に。 鳥海百合子